



この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

2022年1月2日号

編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部



論点

2022年にのぞんで

5日(水)、7日(金)など4回＝オピニオン面

新年を迎え、各界の識者は何を思うのか、4回にわたって掲載します。2022年は団塊の世代が後期高齢者になります。社会学者の上野千鶴子さん＝写真右＝が、

団塊の世代をキーワードに現代社会を鋭く斬ります。宗教学者の山折哲雄さん＝同左＝は、生と死や心の時代について語ります。日本近代史が専門の加藤陽子

さんと台湾出身の作家、温又柔さんの対談や、ベストセラー「人新世の『資本論』」（集英社新書）の著者で大阪市立大学の齋藤幸平准教授も登場します。



特集 ワイド

コロナ時代の幸福論

5日(水)＝夕刊特集ワイド

コロナ禍となって3年目の幕が上がりました。疫病による受難の時代となって生活が変わり、社会が変わり、世界が変わり、人も変わりつつあるように感じます。連載企画「コロナ時代の幸福論」では、人は何に幸せを感じ、生きるのか、尋

ねてみることにしました。第1回は書家でアーティストの紫舟さん＝写真。コロナ禍の中で我慢を強いられたといい、幸福のモノサシも変わったそうです。では紫舟さんにとっての幸福とは何なのか、聞きました。



米連邦議会議事堂を囲むトランプ氏の支持者



群馬でニューイヤー駅伝

元日の風物詩である「ニューイヤー駅伝 in ぐんま 第66回全日本実業団対抗駅伝競走大会」。全国6地区の予選を突破した37チームが群馬県庁前を発着点に7区間100キロで争ったレースを詳細に紹介します。大会連覇を期

した富士通、2年ぶりの王座奪還を狙った旭化成、昨年2位のトヨタ自動車、東日本予選を2位通過したHondaなど全国のランナーが今年はどうなドラマを展開したのか、たっぷりとお届けします。

3日(月)＝運動面



第65回大会でゴールする富士通の選手



「ポスト民主主義」の世界

6日(木)から11面など

1989年に冷戦が終結し、91年にはソ連が崩壊。西側の「自由」と「民主主義」が勝利したと受け止められました。しかし30年後のいま、民主主義は退潮傾向にあるように思えます。世界各地で民主的的制度や価値観を巡る議論の真相を追いながら、民主主義の行き詰まりとその再生への処方箋を探ります。まずは、2021年1月にトランプ氏の大統領選での勝利を信じる人々が、議会に乱入した米国から見ていきます。

新毎日



あけましておめでとうございます。今年はずいぶん2色刷り1ページ、2月21日に創刊1239文字で迎えます。サンデーも毎日1000字。毎日12月22日に創刊85年を迎えることができました。歴史を歩むことができています。支えられて、愛顧に支えられて、よろしくお願ひ致します。(齋藤広子)

竹橋の窓辺から

編集後記

